

第62回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『まちづくりと歴史遺産の継承』

—飯田重蔵別邸と下街道—

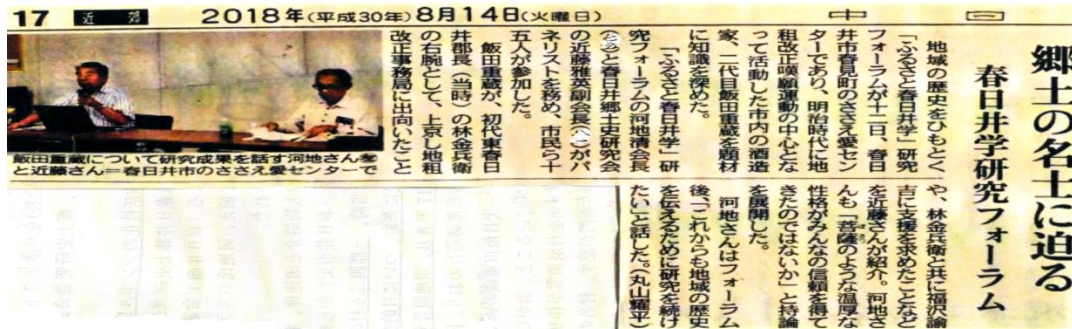
平成30年8月12日(日)市民活動支援センター(ささえ愛センター)において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ：『まちづくりと歴史遺産の継承』—飯田重蔵別邸と下街道—と題して、パネリストとして、近藤 雅英氏(春日井郷土史研究会副会長)、河地 清氏(「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長)、に参加して頂き講演していただきました。本来はパネルディスカッションの形で組まれたが、郷土史研究会会長の桜井芳昭氏の欠席でお二人の研究成果を披瀝する形になった。

フォーラム参加者は、21名でした。



講演するパネリスト諸氏の紹介

会場風景



中日新聞記事

## －発表要旨－

**I 河地清氏からは春日井市立「郷土館」と下街道は、地域活性化のシンボル!**と、2014年5月の第14回の本研究フォーラムで発表された村中治彦氏(前春日井郷土史研究会会長)の「下街道の歴史遺産」を振り返っての紹介と近藤雅英氏の執筆による「春日井商工会議所ニュース」に掲載の「春日井の人物、二代目 飯田重蔵」を資料として添え、河地氏のスライドによる下街道の飯田重蔵別邸や飯田重蔵翁碑、街道筋の風景が紹介された。

**II 近藤雅英氏からは改めて、飯田重蔵(二代目)についての人物紹介と頌徳碑、郷土館についての説明があった。**(1) 飯田重蔵(二代)とはどんな人物かを「春日井市史」から紹介…鳥居松(下原新田町割)の人、飯田氏の二代目、里長の職にあった当時、一郡四二ヶ村の地租改正訴願事件に、総庄屋林金兵衛の片腕となり、苦心惨憺訴官済民に奔走、ついに目的を達した。明治16年8月10日没。享年65。かれの功績をたたえて明治17年8月、同地観音堂側に翁の頌徳碑が建立された。また、明治13年6月30日、明治天皇が京都御巡行のおり、同家がお小休所となった。(2) 親子の頌徳碑が二基建つが向かって左側が二代目飯田重蔵の碑である。表に偉業を讃え、地租改正の際の事は林金兵衛氏の祈念碑に書かれていること、翁が亡くなって四十二村の人民がその死を惜しみ碑を建てた。最後に、4言詩4句を丹羽消雲が作り書した。裏には春日井郡四十二ヶ村の名が刻まれ、発起人惣代 梶田喜左衛門が記す。村名の後に消雲の和歌が刻まれている。「春日井の四十二ヶ村はよの人を親しくめづる○○ よくなりにはけり」と○のニヶ所がよくわからないと言われた。この和歌の解説をした塚田忠雄(本フォーラム副会長、郷土春日井研究会会長)の解説した一文を資料として添えられ、最後に塚田より説明する機会が与えられた。(3) 郷土館の持ち主の変遷…昭和13年に篠木村村長の藤田三郎が史跡ほぞんのために買収し、昭和18年市制施行の際に春日井市に移管した。尾三銀行、大垣共立銀行や商工会議所が入ったため内部は一部改修されている。(4) 明治天皇(1852年生まれ、在位1867-1912)の御巡行で春日井を通ったのは明治13年6月30日。太政大臣三条実美(さねとみ、1837-91)ら463名が随行した。多治見で宿泊し、内津村村長の長谷川定七方で休憩、坂下村の萬寿寺(坂下行(あん)在所)で昼食をとり、下原新田御小休所(飯田重蔵の離れ屋敷)で従持16人とともに休憩をとった。12時5分着、12時30分発。小休中、重蔵手製の清酒(若梅)2樽とガラス瓶細工を天覧。(5) 飯田重蔵碑にある林氏記念碑語中にあるという「金兵衛君碑」(発起人総代 飯田重蔵 梶田喜左衛門)には「迫君以詣京直訴、君之與飯田重蔵梶田喜左衛門等、就途親訴於内務省及地租改正局、如此者前後二次、東西奔走殆涉歳終不省、然其間有際聖駕南巡謀輦(れん)哀訴之舉其勢頗急、君大驚馳往止之、乃挺身三階橋上呼曰、……爲發帑金三萬五千圓付之」と書かれている。(6) 君主(旧藩主徳川慶勝)から与えられた救援金3万5千円について、「約定証書」(明治15年6月8日)が残されており、コピーが配布された。それには3万5千円の内、9千円の諸費(歎願での出費分)を除き残り2万6千円也と。割合の考え(趣)は承諾証を差上げたので現在割符金は6千円になる。配当金の高い安い(負正)の受(請)取りで万々一苦情が出て増減が生じ、また…によって入費を要するときもあるので受取金額の割合が減ることがあ

る。と約定の委細が書かれている。(このところは約定証書を筆者が勝手に解釈。要するに、残金の分配は減るかもしれないということ。42 カ村の「**儉約示談**」に世話人として署名させた。同時に「**節儉法**」を出して、節約儉約の方法を条書きにして示している。地租の上昇分を埋める意味のあった資金(残金)を節約儉約で減らさないようにという意味があった。

**Ⅲ 塚田忠雄氏による飯田重蔵碑の和歌解説の補足** … 鳥居松の下街道の通りは「歴史ある下街道」としてその景観を売りにしてきたが、郷土館は地震対策への出費が壁になって館内に入れず、建物の正面と庭先にある石碑群を見るだけになり、観音堂横の飯田重蔵翁の頌徳碑もその裏にある丹羽消雲の歌を正確に解説できず、市史にも解説文と歌の解釈が載らずに今日に至った。街道筋を「まちづくり」の中心に据えるためには、少なくとも歌碑を読まないかという思いで、塚田氏が 2017 年に挑戦した。「春日井の 四十二村盤 与化人乎し多し九 め津るま転 よ久なり尔けり」と読む。「春日井の 四十二村は 与(ともに)化人(けにん)乎(を) した(親)しく め(愛)づるまで よくなり(に)けり」と訳した。与を「ともに」と読むのは芭蕉の**麦穂塚**にある「來與(いざとも)に 麦穂喰(くら)はん 草枕」がヒントになった。「化人」は菩薩になった人の意味で「岩波 仏教事典」に出ている。観音堂は観音菩薩を祀る堂であり、頌徳碑の飯田重蔵翁碑の文字は「鳥文字」になっている。善光寺の扁額の文字と同じである。下街道を善光寺街道と呼ぶことを考えると、まさに歴史と文化の遺産として誇れるものとなる。

(記録：塚田忠雄)

## OPINION

# 「まちづくり」「地域活性化」のために

## 春日井市立「郷土館」閉館！

### 今後、どうなるのか？

現在鳥居松町に所在する「春日井市立郷土館」は、耐震基準を満たさないとの理由で閉館されている。この建築物は、幕末頃(安政3年頃)に建てられた、この地の地主で酒造家**飯田重蔵家の別邸**である。

歴史建造物である。この建物は、下街道という歴史街道に位置しているのでこの地域の人たちに近代の歴史を色々と伝えてきている。庶民街道としての宿場町でもあったので、多くの文人、墨客も往来した。俳人横井也有もそのひとりである。明治維新には国家的事業近代税制改革(地租改正)の進行をめぐって地域の人々は生活の危機を賭けて慌ただしく往来した。この地の村落指導者林金兵衛と福澤諭吉との運命的な出会い。そして、官との対峙に苦悩する林金兵衛、飯田重蔵等が活動の拠点とした、街道である。

明治という新時代の国づくりは、明治天皇の全国巡幸で一步一步前に進んでいった。明治

天皇は中山道からこの下街道へ、そして、飯田重蔵別邸（現郷土館）に休息をされた。等々、歴史ある街道である。

こうした歴史は、地域の共通の財産であり、歴史資産である。「歴史を大切にするものに未来があり、疎かにするものに未来はない」の教訓のごとく、保護・保存すべきはし、伝えるべきは伝えて行くことを怠る地域に活性化も未来もないと言える。

今、諸々の事情で死に体となってしまった歴史ある「郷土館」、下街道のシンボル「郷土館」を保護保存をしないで、地域の特色も活性化もないと考えます。市民も、行政も地域も将来を見据えて考える時、次代の人々の為に決断するときが来たと言えます。

新しい時代に則した施設づくり、地域創りの拠点となるような存続を期待したい。地域の理解と、地域創りへの意欲が今こそ問われていると思います。地域の活性化の必要条件は、歴史性、文化性、精神性であることを考えた時、特色ある文化の臭いがする地域の新しいコミュニティーの場として、新しい郷土館づくりで地域再生を計ってもらいたいと願うばかりであります。

地域再生と、地域活性化を考える問題として提起したい。

### 「郷土館」解説

本館は春日井市制三十周年を記念して開館したものであります。本市においては、かねてより文化財の保護につとめてまいりました。すでに春日井市史も刊行され、市民の皆さんに郷土の歴史と文化財の愛護についてあらゆる機会に呼びかけて来ましたが、ここに由緒ある旧施設を補修して郷土館を設置し、郷土文化の伝統と創造に資することに致しました。近年郷土館は各地に建設され、一般庶民の生活文化の歴史を一目理解するためにも民族・民具の収集と展示がなされる傾向にあります。本市においては、市民意識を背景に、市民のために、市民の手によって、この郷土館が、さらに充実してゆくことを願いたしたいと存じます。

### 一、本館建物の沿革

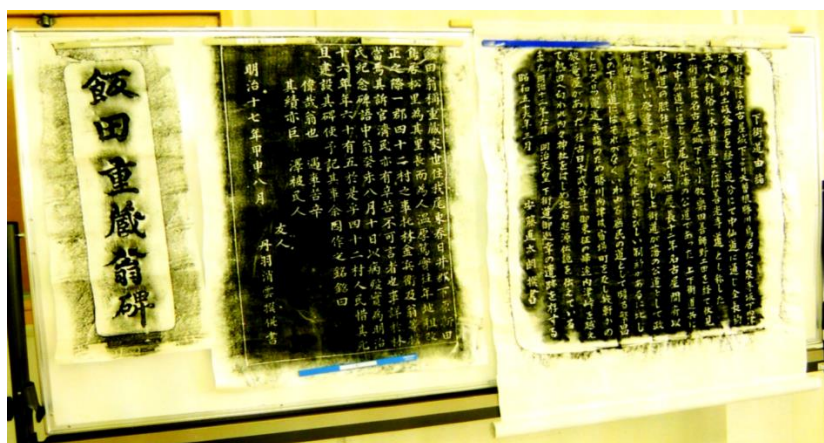
この建物は、江戸期末期安政三年の建造で、当地の酒造家飯田重蔵氏の離れ座敷であります。したがって民家としても当時の遺構をを伝えております。明治十三年六月三十日、明治天皇が民情御視察のため東京より中仙道を経て京都にご巡幸の途次、下街道における御小休所となった建物であります。その後建物の一部に変更がございましたが、おおむね原型を保持しております。建物および敷地の所有者も変遷がございましたが昭和十三年十二月二十七日、時の篠木村長藤田三郎氏が遺跡保存のため所有者、大垣共立銀行より買収して村の管理下におき、ついで史跡として文部省の指定を受けたものであります。昭和十八年春日井市制施行に伴い、市に移管して今日に至りました。



## 郷土館の在り方について

資料の収集と展示の方法等について、つねに新しい角度から検討するべきで、ただ古物を並べるといったものではいけないと考えます。市民の生活と直結した血の通ったもので、郷土文化の伝統を知ると共に、新しい市民文化の創造に役立つものであって欲しいと思います。本館は、まだ緒についたばかりでありますので、その整備充実と活用は、今後幾多の課題をもっております。本館は、その立地条件の上からも、明治、大正期を中心にしかも下街道文化の紹介につとめ、さらに市内の民族資料、埋蔵文化財、古記録、古文書の収集につとめ一般市民の皆さまに親しんでいただける郷土館に致したいと存じますので、今後とも市民各位の深い御理解とご協力をお願いする次第であります。

(昭和四十八年六月十五日) 春日井市立「郷土館」のしおり より抜粋



旧飯田重蔵別邸（現春日井市立郷土館）と飯田重蔵翁碑拓本

(文責：河地 清)

計画中！

65 回

ふるさと



## 春日井学研究フォーラム

Forum テーマ：『書のまち春日井と小野道風』

—小野道風の風景—

日 時：未定

場 所：未定

パネリスト：塚田 忠雄 氏（春日井郷土史研究会会員）

河地 清 氏（「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長）

未定

※（非会員の方のみ資料代 500 円当日徴収させていただきます。）定員 80 名（定員で〆切ります）

※申し込み 事務局：〒486-0825 春日井市中央通り 2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学検索

フォーラム案内は中日新聞「ウィークエンドガイド」（毎週金曜日）近郊版に掲載します